

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02058

研究課題名(和文) 宗教法人の境内地の空間変容と公共性に関する調査研究

研究課題名(英文) Research about space transformation and the publicity of the precincts place of religious corporation

研究代表者

石井 研士 (ISHII, Kenji)

國學院大學・神道文化学部・教授

研究者番号：90176131

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、我が国の宗務行政を担当する文科省(当時は文部相)文化庁宗務課が昭和33年から全都道府県に対して実施した<宗教法人の境内建物・境内地の使用状況等調査>で回収した約16万余の宗教法人の境内地・経済状況調査票を整理分析することを目的とする。

段ボール箱200箱以上に上る資料は資料の劣化が激しく、また保存のためにPDF化を行った。資料は二種類で、一種類は境内地の地図を含む境内の広さやその使用用途に関するものである。こちらの資料のスキャンは終了した。もう一種類は各宗教法人の財政状況を克明に記した資料で初めて存在が確認できた。膨大な上に紙資料の質が悪く、資料の整理が十全に終了しなかった。

研究成果の概要(英文)：The department of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (Education Ministry aspect) carried out investigations such as the use situation of the precincts building, precincts place of the religious corporation for whole prefectures from 1958. This study is to arrange it, and to analyze the precincts ground, the economic conditions questionnaire of approximately more than 160,000 religious corporations.

The deterioration of the document became PDF for preservation again intensely. The document is two kinds, and one kind relates to the area of the precincts including the map of the precincts ground and the use. The scan of this document was finished. Another one kind confirmed existence in this investigation with the document which I wrote down the financial status of each religious corporation scrupulously for the first time. The documents were enormous and were poor quality paper, and the rearranging was not finished.

研究分野：宗教学

キーワード：宗教法人 宗教法人法 境内地 宗教法人会計 公共性

### 1. 研究開始当初の背景

戦後宗務行政が実施した調査資料を収集し、分析をする中で、情報量的にも現代における重要性においてもきわめて重大な資料があることを再確認した。〈宗教法人の境内建物・境内地の使用状況等調査〉は量的に極めて大きく、進行中の研究の中で扱うにはあまりに作業量が多かった。そのために、あらためて、研究計画を構築するのが妥当と判断した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、境内地・境内建物の変容に着目して、現代日本社会における宗教団体の公共性、公益性を分析することである。具体的な作業は以下の三点である。

(1)戦後、宗務行政が実施した宗教法人の境内建物・境内地に関する膨大なデータを利用可能な状態にしたうえで、数的処理を行う。

(2)境内地の利用形態の変化が著しい東京都などを事例としてとりあげ、境内地の利用、もしくは保有がどのように変化したかを、宗務行政の資料との比較を行う。とくに変容の著しい事例については、実地調査し変容の過程を検証する。

(3)宗教法人(境内地・境内建物)の公共性、公益性に関する分析を行う。

以下、個々の作業を詳述する。

(1)宗務行政は、行政を円滑に進めるために、また国民生活に資するために数多くの調査を行い、膨大な報告書を作成してきた。市販されたものはわずかで、大半が行政機関向けの報告書として作成された。当時は現在と異なって、かなり宗教法人に踏み込んだ調査が実施されていた。特色あるものだけ、ごく一部を列挙すると次のようになる。現時点では、宗教団体との関わりから、実施不可能な調査が少なくない。

昭和 22(1947)年 戦災宗教施設復旧状況調査

昭和 25(1950)年 宗教主義学校と宗教教育調査

昭和 26(1951)年 宗教教育実態調査

昭和 27(1952)年 視聴覚布教の実態調査

昭和 29(1954)年 信仰の対象と象徴調査

昭和 31(1956)年 信仰治療についての調査、儀式行事、信徒の教化育成の調査

昭和 32(1957)年 宗教法人の財源の分類と支出費目に関する調査

こうした一連の調査の中で、大規模であったにもかかわらずほとんど調査報告が行われていないものが存在する。昭和 33 年から全都道府県に対して実施された〈宗教法人の境内建物・境内地の使用状況等調査〉で、数年間にわたって実施された。当時の 18 万宗教法人のうち、およそ 9 割にあたる 16 万余の宗教法人が回答した。

実施主体は文部省調査局宗務課で、B4版の調査票の両面に記入するようになっていた。各宗教法人は、境内建物と境内地について坪数や利用状況を記入した。調査票の裏面には、平面の略図を記入するようになっていた。宗教法人の約 90 パーセントが回答した極めて重要な資料であるにもかかわらず、短い報告が『宗務月報』に掲載されただけで、放置されていた。

調査資料は、その後、どのような経緯かは不明であるが、東京大学文学部宗教学研究室へと移動された。16 万宗教法人の回答用紙は段ボール 200 箱ほどの大量なものである。膨大な資料は、東京大学の増築などにより、宗教学研究室から安田講堂へ、そして現在は宗教学研究室が管理する倉庫での保管となっている。すでに経年が過ぎ、調査票も劣化する中で、有効な利用が考慮されてしかるべきである。代表者が実施する科学研究費補助金「戦後の宗務行政が実施した調査の実態解明と宗教団体に及ぼした影響の研究」の過程であらためて資料としての重要性が認識され、継続的な調査が必要と判断した。

(2)〈宗教法人の境内建物・境内地の使用状況等調査〉の個々の調査票には、境内建物とその利用状況だけでなく、境内と建物等の配置図が掲載されている。両者を比較することで、神社や寺院をはじめとした宗教法人の空間構成の変容(聖性の変容) 公益性・公共性の問題を考察する。

戦後、とくに高度経済成長期になってから、神社や寺院の境内利用に関して大きな変化が生じるようになった。境内地を利用して保育園や幼稚園といった福祉事業だけでなく、駐車場や大規模なビル建築が生じることになった。現在判明している事例の調査研究を行う。

(3)境内地・境内建物は、その公開性を含めて、宗教団体の持つ公共性、公益性と大きく関わっている。

とくに伝統宗教は宗教法人の数が多く、また比較的広い境内地を有している。戦後、学校用地、公園用地、道路用地に境内を提供した法人は少なくないし、駐車場やビル建設など積極的に境内を変容させてきた事例も数多く存在する。

しかしながらこうした境内地や境内建物の変容は、伝統的な宗教空間の変容をもたらし、近年の課税強化とも関わって、社会的問題となっている。こうした問題の基礎的資料の作成と事例研究を行う。

### 3. 研究の方法

研究は、各年次で重なる部分を持ちながら、以下の順序で実施する計画を立てた。

(1)調査データの分類と整理を行う。段ボール 200 箱分、16 万宗教法人を調査資料として活用できるように、分類、整理し、PDF化する。

(2)土地利用の変更が想定される大規模都市を抱える府県の首都圏を中心とした都府県の資料から数的処理を行う。

(3)大規模な境内地の変更、利用形態の変化についてはある程度の資料が存在する。資料と現状を比較し、空間の宗教性の変容に関する考察を行う。しかしながら、実際に作業を始めてすぐに調査の困難さに直面することになった。

#### 4. 研究成果

平成 27 年度に開始した本事業は、段ボールで 200 箱以上に上る宗教法人の境内地に関する資料の資料化 (PDF 化) から始まった。

膨大な量の資料のため、すでに記入のある番号を確認しながら、段ボールに新たに番号を振った。

倉庫での確認作業を経て、必要な資料を研究代表者である石井の研究室へ移動したが、多量のため研究のためのスペースを確保は困難を極めた。年度当初、夏期休暇前、年末の三回にわたって研究室へ運び入れたが、それでも 100 箱が限度であった。

段ボールは県別、宗教系統別 (神道系・仏教系・キリスト教系・諸教) に順次搬入することとした。研究室にて、段ボールごとに資料を確認し、詳細な内容を段ボールに表記した。当初は境内の利用状況の変化を把握しやすいと考えられる都道府県から優先的に一覧を作成し、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、京都府、福岡県の順として作成に必要とする時間数を確認して、他県の処理範囲を決定する予定であったが、量が膨大なため、県別番号 1 の北海道から順次スキャンすることとした。

スキャンに関して、もともと半紙であったことと、年月の経過と保存状態の問題で、劣化の激しい資料が少なくなく、読み込んだ資料はそのままの利用には耐えなかった。そのため、取り込んだ PDF について一枚ずつの修正作業を求められることになった。PDF 化もオートシートフィーダーは利用できず、非接触型スキャナでの取り込みを強いられたため、作業時間的にはかなりの増加となった。

それでも最終的には、研究計画調書に明示した A3 判両面利用の境内地資料に関しては、すべて PDF 化を終了した。また、新たな発見として、保存されていた資料には、境内地の資料だけでなく、当時の個々の宗教法人の経理状況が記載された (自己申告) が膨大にあることがわかった。

平成 28 年度は、平成 27 年度に資料を整理した際に、相当量の各宗教法人の財政状況に関する資料が含まれていることが判明したため、これらを資料化することとした。

平成 29 年度は、平成 28 年 3 月に逝去した筑波大学名誉教授井門富二夫氏が残した文化庁宗務課時代の 800 点以上に上る資料

の目録を作成した。資料そのものは、PDF 化するだけの時間と費用が足りず、創価大学の研究機関に保管されることになった。

当初の目的は十分に達成されなかった。資料整理が終了せず、数値化は比較も困難だった。しかしながら、戦後、宗務行政が行った調査資料の収集と整理という点では大きく前進した。今後も作業と分析は継続し、成果を公開する予定である。資料の整理は終了しなかったが、石井の論文に顕著のように、資料の一部は研究の下敷きとして参照され、成果が産出された。とくに人口減少に伴う宗教法人の今後の予想に関しては重要な要素となった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

ISHII Kenji, Community Marginalization and Jinja Shrine, Kokugakuin University Digital Museum, 2017, 1-10

石井研士、宗教団体の社会貢献活動に関する調査報告、宗教団体の社会的貢献活動に関する調査報告書、査読無、2017、1-41

石井研士、地域性による神社の格差の実態理解に向けて、「神社・神職に関する実態調査」報告書、査読無、2016、127-139

石井研士、データ分析から限界宗教法人とされる寺院、月刊住職、査読無、210 号、2016、36-43

石井研士、データ分析から限界宗教法人とされる寺院、月刊住職、査読無、211 号、2016、48-54

石井研士、データ分析から限界宗教法人とされる寺院、月刊住職、査読無、210 号、2016、38-45

石井研士、宗教法人は消えるのか?、日宗連通信、査読無、2015、4-7

石井研士、宗教法人と地方の人口減少、宗務時報、査読無、120 号、2015、17-35

石井研士、生き残る神社・生まれ変わる神社、東京人、査読無、2015、68-74

[学会発表](計 0 件)

[図書](計 1 件)

石井研士、弘文堂、渋谷学、2017、199

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

石井 研士 (ISHII, Kenji)  
國學院大學・神道文化学部・教授  
研究者番号：90176131

### (2) 研究分担者

西村 明 (NISHIMURA, Akira)  
東京大学・大学院人文社会系研究科 (文学  
部)・准教授  
研究者番号：00381145

藤原 聖子 (FUJIWARA, Satoko)  
東京大学・大学院人文社会系研究科 (文学  
部)・准教授  
研究者番号：10338593

### (3) 連携研究者

### (4) 研究協力者